



だより

— つながれ ひろがれ —

第161号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば

TEL : 090-8116-4633
E-mail : info@kanpachiba.com
<https://kanpachiba.com/>

行動しましょう！持続可能な社会の実現

特定非営利活動法人環境パートナーシップちば
代表理事 桑波田 和子

新年おめでとうございます。今年もどうぞよろしくお祈りします。

会員の皆さまはじめ、多様な方が当会へご支援、ご協力をいただき感謝申し上げます。

昨年は、新年早々に能登地震があり、酷暑、豪雨など自然災害も多い年でした。一方、パリオリンピックでは日本代表が過去最高の45個のメダル獲得、ノーベル平和賞では日本原水爆被害者団体協議会が受賞など、希望へつながるニュースもありました。

2025年がスタートしましたが、ロサンゼルス山の山火事など、気候変動の影響を眼前に突きつけられています。地球の平均気温が1.5度を超えたこと、ツバルが海面上昇で島から移住する人など世界の状況からも、これまで経験したことのない現象が

起きています。

県の若者事業の応募の中に、衣類のロスや食物残渣の有効活用など物質循環の提案があり、受賞しました。また、「エコメッセちば2024」では、親子や若者の来場者が多く、体験ブースは賑わっていました。子どもたちの未来のため、また、若者の新しい視点を活かす、お互いを知り、尊重し、多様につながるなど、大人の私たちにできることを着実に進めようと強く思わせられた場でした。

巳年は、再生と変革の年だそうです。持続可能な社会を目指し、社会システムの変革が必要と思います。これまで以上に希望をもって、明るく楽しく取り組み進めましょう！ご支援、ご協力よろしくお祈りします。

新しい年を迎えて

千葉県環境生活部循環型社会推進課長
石田 涼

令和7年の新春を迎え、特定非営利法人環境パートナーシップちばの皆様におかれましては、ますます御清祥のことと心からお喜び申し上げます。皆様には、日頃から地域の環境保全活動、環境学習、多様な主体との連携など、本県の環境行政の推進にお力添えをいただき、厚く御礼申し上げます。

昨年の「エコメッセちば」では、SDGsの目標の一つである「パートナーシップ」をテーマに掲げ、パートナーシップビンゴやSDGsマルシェなどの新しい試みもあり大盛況となりました。様々な主体と共同で取り組む「エコメッセちば」は、県にとっても重要なイベントであり、今後の更なる発展のため、皆様とともに努めてまいりたいと考えています。

県では、「千葉県環境学習等行動計画」に基づき、

持続可能な社会の構築に向けて、あらゆる主体が環境問題を自らの問題として捉え、連携・協働して取り組む「行動する人づくり」を目指しており、「若者が主役の環境保全活動応援事業」などの各種施策に取り組んでおります。多くの方々に環境問題について御理解いただき、千葉県の豊かな自然を次世代に継承するためには、パートナーシップによる環境活動の推進と充実を目指す皆様との協働・連携が欠かせません。今後ともお力添えを賜りますよう、引き続きよろしくお祈りいたします。

結びに、貴団体の一層の御発展と、会員の皆様の御健勝・御活躍を祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。



「若者が主役の環境保全活動応援事業」R6 受賞団体が活動スタート！

令和6年10月20日（日）に開催された「若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト」で受賞した3団体について、これからの活動を有意義に進めていくためのスタートアップ会議を開催しました。

会議の内容は、①コンテスト後に再検討した事業内容の紹介。②活動するにあたり気になる点。③参加者からの質疑や応援メッセージといった流れで進められました。

★ 第1位 千葉県立大網高等学校農芸化学プロジェクトチーム

テーマ「食品廃棄物と鉄くずで作物パワー活性化」受賞した高校生たちのほか、地域のNPOや市民をつなぐNPO法人市民ステーション・まちさばの方、県環境農業推進課みどり・耕畜連携推進室等の方々にお集まりいただきました。

この活動では、食品加工残渣の活用を食品ロス対策ととらえ、ごみを資源とし、活用の循環を目指しています。タンニン抽出できる原料になる栗の鬼皮、渋皮やミカンの皮と、鉄くずなどからできるタンニン鉄の活用方法を深め、地域への発信方法や活動を広げていくための計画などを話し合いました。地域の高校生の研究と活動が、日本の農業や食品産業をより良くし、気候変動の解決策のひとつになるかもしれないと感じられる、わくわくする会となりました。



★ 第2位 carutena (カルテナ)

テーマ「着なくなった洋服に、第二の人生を」carutenaが考える「アップサイクル文化」を次世代に繋げる機会として、ファッションショーを企画しています。ファッションショーでは作品を見せるだけでなく、ステージ演出にもサステナブル要素を盛り込むほか、ショーの参加者とともに作りあげる内容を検討しています。多くの関係者、協力者を必要とするため、課題を整理し、関係者の構築を進めるための会議を再度実施することとなりました。



★第3位 東邦大学ネイチャープロジェクト

テーマ「都市住民による持続可能な里山保全活動の提案」

大学生のチームのほか、活動場所で里山保全活動を行ってきた協力団体、活動場所の自治体である白井市、印西市の環境部局の方々にお集まりいただきました。

若者の活動への課題に対して、参加者の経験や反省を共有したり、協力団体や自治体の方々自身が行いたいことを改めて共有することで、互いにリスペクトを感じ、それぞれの活動が進むことでの相乗効果も期待できる会となりました。



若者たちは、課題を楽しみながら解決していきます。それは彼らなりの課題解決への取組方法であり、達成感を得て、次の活動のモチベーションに繋げています。そうして、それぞれに活動を進めています。活動を進めるには有形無形の応援が必要です。はじめばかりの活動には、回り道と思われることもあるかもしれませんが、時代の移り変わりとともに、回り道の先に新しい芽ができていくかもしれません。皆様からの応援を引き続きよろしくお願いいたします。

なお、東邦大学ネイチャープロジェクトは昨年度の報告会の様子（千葉県若者事業 HP より：<https://www.youtube.com/watch?v=V1Nq8x1xAPE>）を応募企画の参考にしたとのこと。先輩受賞者が良いモデルになっていることもわかり、うれしく思いました。（文責：山内 可奈子）

令和5年度「若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト」 受賞3団体の活動紹介

ここでは、各団体から届いた報告を紹介いたしますが、詳細は、千葉県 HP

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/kankyougakushuu/wakamono/2023/r5wakamonoouen.html#sonogo>

および、県広報 X (@chibaken_kouhou) をご覧ください。

【1位】蘇れ！耕作放棄地～日本菫に託す私たちの 想い～（成田日本菫復活チーム成田西陵高等学校 園芸科作物専攻）

耕作放棄地の有効利用を目指して、日本菫の栽培を開始しました。千葉県で問題となっている放置竹林を、無煙炭化器で炭にして土壌改良として利用し、有機農業でカーボンオフセットを目指し「SDGs 15陸の豊かさを守ろう」に取り組んでいます。

また日本菫根の販売を開始し、日本菫染めと千葉県の伝統工芸品であるつまみ細工に着想を得て「つまみかざり」で伝統文化の伝承活動をおこなっています。

※「第10回全国ユース環境活動発表会関東地方大会（令和6年12月開催）で、「蘇れ耕作放棄地～日本菫に託す私たちの想い～」が審査委員特別賞を受賞しました。

【2位】里山活用コミュニティ「グリーンベース」 （学生団体グリーンベース）

◆令和6年3月：受賞後初めての里山体験イベントである「グリーンベース Episode1-開拓の狼煙-」を開催しました。イベント前に運営メンバーがイベントに向けた整備を行い、当日は、約30人の大学生に向けて里山整備体験を実施しました。調理したカレーを食べた後の街歩きワークでは、小湊鉄道上総牛久駅の周辺を散策し、活動のスタートを切ることができました。

◆8月：植物観察アプリ Biome を用いたフィールドワークや、竹を用いたお箸と器の制作体験、制作体験でつくったお箸と器を使った流しそうめんを実施する計画を立てていましたが、雨天のため中止となってしまいました。

◆12月：千葉みななどで開催されたクリスマスマーケットにて、約300本の竹あかりを用いて幻想的な空間をつくりあげました。灯した竹あかりは、

たくさんの人や団体と協力して作成しました。企画から携わった学生やイベントに参加してくれたお客さんが里山が抱える課題について気付くきっかけになりました。また、イベントに向けた作成会や当日のイベントを通して、年齢や団体の壁を越えた交流も図ることができたイベントとなりました。

今後も、大学生ならではの魅力的な里山の保全と活用を創っていきますので応援よろしくお願ひします。

【3位】地域の特色を生かした自然体験型学習プログラム の画策（千葉大NESO）

◆4月27・28日：第1回目自由研究プログラム（いすみ市）

参加者4名（小3から小6）。スタッフ5名（学部・院生）。4月19日に参加者とオンラインで事前打ち合わせを行い、プログラムを実施しました。今回のプログラムを振り返り、大学生と小中学生が交流することの意義を改めて実感しました。大学生だからこそその接し方や生徒との距離感が、アカデミックな研究だけでなく、生活面で生徒の自立を促すきっかけになっていたように感じます。詳細は

<https://note.com/chibaneso/n/n10882a937ec3>

◆11月2・3日（南房総市）第2回目自由研究プログラム（南房総市）

参加者8名（小4から中1）、スタッフ7名（学部・院生）。10月28日に参加者とオンラインで事前打ち合わせを行い実施しました。我々を信頼し、大切なお子様を送り出してくださった保護者の皆様へ、大変ありがとうございました。

参加者の声など詳細：

<https://note.com/chibaneso/n/n98ff5e86cb48>

（文責：桑波田 和子）

今年度も船橋エコカレッジの まよめの講座を担当させていただきました

今年度も船橋エコカレッジのカリキュラムの最後
のまよめの講義を担当した。船橋エコカレッジは
生物多様性ふなばし戦略の中のリーディングプロ
ジェクトの一つであり「学ぼう・作ろう・つなご
う 環境の『わ』」を全体テーマとして、自然環
境を中心に、環境に関するテーマを幅広く学び、
生物多様性に関する取り組みのリーダーや市民団
体の後継者などを育成し、地域における継続的な
環境保全活動を促進することを目的としている。
毎年 30 人程度の受講生を受け入れ、開講されて
おり、受講生には「環境に関する基礎知識」「生物
多様性に関する知識」「生物多様性に関する実体
験」「環境保全活動の実施の経験」「環境保全活動
を自ら行う心構え」などの習得が求められる。

今年のカリキュラムでは9回の講義、5回の
フィールドワーク、2回のグループワークと市内
の清掃工場の見学及び市民団体の活動紹介などか
ら構成されている。今年のカリキュラムでは”生

きものモニタリング調査”への参加が含まれてい
る。この調査は、生物多様性戦略で計画された市
民参加型の環境調査である。

受講生は船橋市全域に渡る幅広い環境問題を学ん
だ上で、カリキュラムの最後のまよめのグループ
ワークとして、最も興味・関心を持った分野に関
する議論を行った。里山関連2グループ、里海グ
ループ、生きもの調査グループの4つのグループ
に分かれて議論を行ったが、どのグループも市内
の環境問題の実情に基づき、市として取り組まな
くはならない具体的な活動を提案できるような
まよめをすることができた。

今後はもう一歩進んで、彼ら自身が環境保全や生
物多様性の保全を担う活動に参加し、市民活動の
次代を担う人材に育ってゆくことが期待される。

(文責：谷合 哲行)

いはら市民大学【環境コース】環境まちづくりワークショップ

今年も環境パートナーシップちばは、10回目とな
るいはら市民大学【環境コース】の中の11月
26日、12月3日のワークショップに桑波田、小
倉、谷口、芦川の4人がファシリテーターとして
参加しました。

受講生は、「地球温暖化」「ごみ・リサイクル」「里
山や自然環境の保全」の3つのテーマの中から、
講座で興味をもった課題を選び、それぞれのグ
ループに分かれて自分たちでできることを具体化
していきます。

「里山」チームは、「自然の家構想」として里山だ
けでなく、海のある市原の特徴を生かした里海に
も広げた里山活動を考え、廃校の利用など具体的
な取り組みを考えていました。「地球温暖化」チ
ームは、「省エネは地球を救う」。今日からできる家
庭での省エネを考え、より具体的な行動で地球温
暖化防止に取り組む計画です。「リサイクル」の
チームは「分ければ資源・混ぜればごみ」という
活動タイトルで、普段からごみを出すときに迷う
資源物との分別をきちんと行うことがごみの減量
化につながる。プラスチックの分別はほとんどが

清掃工場の助燃として使用されているが、それも
サーマルリサイクルというリサイクルの一つであ
ることも調べて知ったという話が印象に残りまし
た。

どのチームも若い世代への意識付けや、小学生へ
の体験学習などの必要性を感じています。この環
境コースを受講したことで、どの世代も環境に対
して興味を持ってもらうにはどうしたらよいかを
考えるきっかけになればと思います。

(文責：谷口 路代)



印旛沼環境基金設立 40 周年記念式典に参加して

印旛沼環境基金は、昭和 59 年(1984 年) 11 月 20 日に設立されました。その後、平成 26 年 4 月 1 日に公益財団に移行し、令和 6 年に設立 40 周年を迎えました。そして、11 月 23 日に佐倉市のウィシュトンホテル・ユウカリにおいて記念式典が行われ、環パちばとして参加させていただきました。

式典は 2 部構成で、第 1 部は理事長やご来賓の挨拶と表彰(①設立 40 周年記念式典表彰、②第 27 回水辺の風景がコンクール表彰)、第 2 部では記念講演として、国立環境研気候変動適応センター副センター長の西廣淳先生の講演がありました。

前半のポスターコンクール表彰では、それぞれの受賞作品を投影しながら、西田三十五理事長(佐倉市長)から表彰状が手渡されました。どのポスターもすばらしく、最初は「拍手係」と思って参加したのですが、終わってみれば、心豊かな気持ちになれて、来てよかった!と思いました。

休憩時間の間に、議員さんやコンクールの受賞者・保護者が帰り、第 2 部の記念講演を聴くための市民が入場してきました。毎年印旛沼環境基金の成果発表会で一緒にする市民団体の方、印旛沼

流域環境・体験フェアと一緒に活動した仲間たち、そのほか「印旛沼関係者」が、まさに一堂に会したという感じで、思いがけずに旧交を温めることができました。

西廣先生の講演は「自然環境の保護から持続的活用へ～印旛沼流域での挑戦～」という演題で、自然はただ大事に「保護」する時代ではない、自然に根差した社会(Nature based Society)を作ろう!とお話しされました。また、里山を防災・減災に活用しよう、地球温暖化防止に竹炭を活用しよう(カーボン・クレジット)など、たくさんの貴重な提案がありました。

(文責:小倉 久子)



サンセットヒルズから眺めた印旛沼

まるごみ印旛沼について

まるごといんばぬまプロジェクト 副代表兼事務局長 久保田 隆志

絶好のゴミ拾い日和となった 11 月 23 日の勤労感謝の日「まるごみ印旛沼 2024 秋」を開催しました。まるごみ印旛沼とは、「日本まるごとゴミ拾い」を掲げる「まるごみ JAPAN」の取組に賛同し、当プロジェクトが印旛沼周辺で実施するものです。

沼をきれいにするだけでなく、海洋プラスチックごみの削減も意識したこの取組。

皆が同じ気持ちになってもらえるよう、現地参加できる方とは一緒にゴミを拾い、現地参加できない方には、印旛沼周辺のお気に入りの場所や日頃の活動場所などを各々でゴミ拾いしてもらうよう呼びかけています。今回は、佐倉市のサンセットヒルズ近くの棧橋周辺でゴミを拾いました。

会場では、毎回ご協力いただく岩渕薬品の皆さんや、岩渕薬品さんのお取引先企業の皆さんなども含めて、約 50 名でゴミを拾いました。また、佐倉市カヌー協会や ISJ カヌー同好会の皆さんなど、15 名ほどの方がそれぞれの活動場所でゴミを拾ってくれました。

そして、会場だけでも、燃えるゴミ 30 袋、かん 6 袋、びん 4 袋のほか、ゴムボート、サッカー

ボール、炊飯器、釣り道具などがありました。最も多かったのはタバコの吸い殻です。他に多かったのは、ペットボトル、レジ袋、空き缶、あきびん、弁当がらなどでした。

面白いのは、納豆パックがいつもあることです。納豆パックは日常的によく出るゴミで、とても軽いので、ゴミ集積場から飛んでくるのだと推察します。弁当に入っているバラもよく落ちていて、風に飛ばされやすいものへの対策が必要です。

取組を始めて 3 年余り。前回に引き続いての参加の方も多く、定着しつつある実感を得ており、印旛沼周囲でもっと多くの人にゴミが拾われるよう、声をあげ続けていきます。



ポイ捨てゴミ銀行

御成街道ゴミ狩り駅伝実行委員会 梅室 政司

ある日「箱根駅伝ゴミ拾い」を新聞で読み、東金には400年前に徳川家康が1612年「鷹狩り」のために船橋から東金まで造った一本道の御成街道があるので「御成街道ゴミ狩り駅伝」をすることにしました。

両端の船橋東照宮と東金御殿のあった八鶴湖のから出発して中間の千葉御茶屋御殿で合流する計画でしたが、両方からの距離の差があり合流ができませんでした。

仕方なく御成街道36kmを何区分かに分け、1日目を船橋東照宮～習志野実籾本郷公園8km、2日目を習志野実籾駅～千葉市内～四街道駅8km、3日目が四街道駅～千葉御茶屋御殿9km、4日目が千葉御茶屋御殿～東金御殿前の八鶴湖17km。

10年くらい距離を変えて続けたのですが、1回目はマスコミも取り上げ、65名位の参加者がいたのですが、運営のため参加費を集めていたので最後

は4名、ゴミ拾いをしたい自分もゴミ回収で車を運転することになりました。

コロナ騒ぎで集団でゴミ拾いすることが出来なくなり、実行委員も各人の地域で密にならないように一人で「ゴミ拾い」することにしました。

ゴミ狩り駅伝実行委員会のなかにタバコ問題を考える会のメンバーがいて、タバコごみの重さだけではなく、本数も数えているとのことで、こちらにも主な種別、数量、重量を記録集計して「ゴミ銀行ゲーム」とし、自宅から東金駅までの道路の両脇のゴミ拾いを始めました。

でも、記録にこだわらずゴミ拾いの清涼感を味わう人、目でゴミ拾いをする黙拾い、ゴミ拾いで万歩計の歩数を楽しむ人など、いろいろな楽しみ方でメンバーと共に今後も活動したいと思います。

初春に 人それぞれの ゴミ拾い うめじ



2025年1月14日(火)6:45～8:45 (2H)
4,752歩 3.53km 気温 -1℃ 湿度 77% 風 WNW3m
タバコ: 110、フィルター: 4、煙草箱: 6、
ストロー: 1、プラスチック: 64、ビニール: 12、
レシート: 8、その他 ゴミ数計: 345
可燃ゴミ: 1,450g 不燃ゴミ: 250g、
重量計: 1700g

体験してみました

カードゲームで2050年カーボンニュートラル

千葉市地球温暖化対策協議会20周年記念事業として、協議会が主催する「カードゲームで2050年カーボンニュートラルを疑似体験しよう!」が令和6年12月7日(土)に千葉市役所本庁舎で行われ参加しました。参加者は、大学生、事業者、大学関係者、NPO、行政の約30名でした。

ファシリテーターの(株)プロジェクトデザイン富山オフィスの武田法信氏は、大学卒業後、自動車会社勤務、富山県へUターンし、富山市役所職員として、「SDGs 未来都市」という富山市のサステナビリティ推進のプロジェクトを担当される中、「2030SDGs」カードゲームを知り、現在の会社へ転職された方でした。

時間配分は以下になります。

- ・13:30～14:15 イントロダクション、ルール説明
- ・14:15～17:00 ゲーム実施と振り返り

参加する前は、長時間だなどと思いましたが、ゲームになると休憩なしであっという間に終了になり

ました。

参加者は、自動車・住宅・食品など各メーカー、金融、政府、NPOなどの立場になり、与えられたカード(ミッションと資金)をもとに、カーボンニュートラルに向けた社会を目指します。カードが揃えばファシリテーターに渡し、カーボン・マップ上に反映します。

ゲームの途中2回、反映されたカーボン・マップ上から、気候変動など地球の状況を知らされます。私は電力会社の立場でした。持ち合わせのカードでやりくりしていましたが、資金不足となり、政府に交渉したりなど、他の立場の人とも交渉しなければ成立しないと気づきました。他の方も後半では、盛んに交渉が弾んでいました。

疑似体験でしたが、「経済と環境の好循環」を体験し自分事としてとらえる場となりました。

(文責: 桑波田 和子)

境川かわまちづくり

浦安市 都市整備部 道路整備課

浦安市では、まちの中心部を流れる境川を「浦安の背骨」と捉え、かわの利活用により、まちの賑わいをつくる「境川かわまちづくり」に取り組んでおり、昨年8月には「境川かわまちづくり（第1期）計画」が「かわまちづくり」支援制度に登録されました。

この制度は、地域の「かわまちづくり」の取組を河川管理者（境川の場合は千葉県）が支援する国土交通省の制度です。登録されることで、「河川空間のオープン化」（通常禁止されている河川空間での営利活動等が可能になる）や、河川管理施設の整備等、ソフト・ハード両面から支援を受けることができます。これにより、制度的にも空間的にも境川をより使いやすくし、多様な活動を促進します。

ソフト施策としては、既存の活動やイベントの活性化、新たな営利活動を促進します。水門等の操作による水質改善や観光遊覧事業、オープンカフェ・マルシェといった新規事業については、実施メニューの検証と改善のための社会実験を行いながら、事業化を図ります。

ハード施策としては、川沿いの散策路や市役所前親水テラス等の拠点、水辺へのアクセス施設の整

備を進めます。

かわまちづくり計画の期間は本年4月からですが、既にかわまちづくりの取組は始まっており、昨年12月には市役所の対岸に川沿いの遊歩道が開通しました。また、計画の策定に取組む中で、それぞれ独自に活動してきた主体同士がたくさんのコラボレーションを重ね、多くの新規イベントが実現しました。

わたしたちは「かわまち」というツールを使って、境川をより多様な活動が実施できる舞台にするとともに、活動の輪を広げ、あらゆる主体が一体となった取組により新しい境川の利活用の可能性を切り開いていきます。



令和6年12月1日に開通した境川沿いの遊歩道

うらやす景観まちづくりフォーラム 浅川 潔

境川は浦安の中央を流れシンボリックな位置づけにあるので、かわまちが始まる前から浦安の水辺環境に関わる市民団体の活動が多く行われています。**浦安水辺の会**は、水辺の体験を目的としたハゼ釣り、リバーウォークガイド、Eボートの普及・市民対象の水辺の安心安全講座、Eボート千葉大会、ミニカフェテラス in 境川、七夕水辺で乾杯、水辺ミュージックなどを行ってきました。**浦安カヌー協会**は、境川の下流域でカヌーを楽しむ練習や、カヌー体験などを行いカヌーの普及活動を、**うらやす景観まちづくりフォーラム**は、ワークショップを開催して境川沿いの景観資源探し、景観提案、まち歩きやまち案内を開催し、境川沿いの景観まちづくりを行ってきました。また、**NEXT30**や**みどりのネットワーク**もイベントやみどりの推進活動に関わってきています。市内の各団体から構成される実行委員会が、境川クリーンアップを上流・中流・下流域で、年3回市民の参加を募り開催しています。

今回の境川かわまちづくりの計画を始めるのに、浦安市はその関連市民団体や地域の自治会に声掛

けをし、最初は懇談会、その後、**境川かわまちを進める会**を設け、その中に水・自然環境、水辺・水面利用、歴史文化の3部会を設けて議論し、市民や市民団体の意見を多数取り入れながら、境川かわまちづくり計画が作成されました。

今後は、浦安市、**境川かわまちづくり推進協議会**、境川かわまちを進める会が連携してかわまちづくりを推進していきます。運営管理は、マネジメント会議が中心となり、協議会の方針決定のもと、イベントや管理運営の各種活動を実施していきます。今まで以上に境川に関わるイベントや活動、まちづくりが行われていくと思われます。



境川クリーンアップ&さくらカフェ

運営会議報告

12 月度運営会議

12月12日(木) 20:30~22:30
会場: オンライン (Zoom)

【報告】

- ・R6 年度若者が主役の環境活動応援事業 (委託事業) 進捗状況 スタートアップ会議
- ・第2回理事会 11/14
- ・令和7年度ちば環境再生基金応募 11/30
- ・いちほら市民大学環境コース 11/26、12/3
- ・船橋エコカレッジ 11/28
- ・SDGs 学生フォーラム打ち合わせ 12/2 他

【協議】

- ・だより161号
- ・中間支援団体としての活動 SDGs/ESD 公開フォーラム 3月開催
- ・R6 年度若者が主役の環境活動応援事業 報告会 3/8 開催
- ・SDGs 学生フォーラム打ち合わせ 12/16 3/9 開催
- ・工場見学 エスケー石鹼 川口工場 1/16
- ・市民活動助成金報告会(南房総市)3/20(祝日) 他

1 月度運営会議

1月16日(木) 20:30~22:30
会場: オンライン (Zoom)

【報告】

- ・R6 年度若者が主役の環境活動応援事業 (委託事業) 進捗状況 スタートアップ会議 12/20
- ・SDGs 学生フォーラム打ち合わせ 12/16、12/17
- ・ボランティア体験報告のHP掲載 他

【協議】

- ・だより161号 進捗
- ・中間支援団体としての活動 SDGs/ESD 公開フォーラム 3/22 開催
- ・R6 年度若者が主役の環境活動応援事業 報告会 3/8 開催
- ・SDGs 学生フォーラム 3/9 開催
- ・工場見学 1/16 4名参加
- ・いちほら市民大学環境コース講座依頼 11/25、12/2
- ・ふなばしエコカレッジ講座依頼 11/27
- ・2025年の活動予定検討 他

お知らせ

若者が主役の環境保全活動受賞団体報告会

日時: 令和7年3月8日(土)13:40~16:45

会場: 千葉県教育会館会203会議室

千葉県千葉市中央区中央4丁目13-10

募集: 会場(100人) オンライン(500人)

参加費: 無料

対象: ・コンテストに興味のある方・環境保全活動に興味のある方・若者と交流したい方・若者の活動を応援したい方

内容: 令和6年度・5年度受賞6団体の活動報告と意見交換会

主催: 千葉県・千葉県環境学習等推進連絡会議

締切: 令和7年2月28日(金)17:00

申し込み <https://forms.gle/c4nmwNo6RdFH45T9>

SDGs 学生フォーラムinちば開催

テーマ: 「つながりから描く私たちの未来図」

開催日: 令和7年3月9日(日)9:30~16:00

場所: 浦安市 まちづくりプラザ

千葉県浦安市入船五丁目45番1号

内容: 1部→各団体の活動紹介

2部→交流ならびに意見交換

募集人数: 50人 参加費: 無料

参加対象: ボランティアをしているまたはSDGsに興味のある高校生、大学生

申し込み <https://x.gd/1HOsO>

申し込み締め切り日: →令和7年3月5日(水)

企画・運営: りこボラ! 学生団体おりがみ

主催: (特非)環境パートナーシップちば

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ

事務局: 〒262-0006 千葉市花見川区横戸台21-13 特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば

Tel: 090-8116-4633 E-mail: info@kanpachiba.com

ホームページ: <https://kanpachiba.com/>

※会費や会員申し込みなどの情報は上記HPでご確認ください。